

企画提案型の自ら前進する産地へ向けて 【福井県織物工業組合】

福井産地は、温暖多湿な気候、豊かな自然環境に恵まれ、奈良時代には既に全国でも有数の絹織物の産地が形成されていたと言われます。そして、明治時代以降、着物の裏地などに使われる羽二重を中心とした絹織物、そして戦前から戦後には人絹織物から化合繊維物へと、メーカーの委託加工工場を中心とした産地へと発展し、その技術力はファッション、産業資材、ハイテク分野などでも幅広くその名をとどろかせてきました。現在でも化合繊維織物の全国生産量の約4割は福井産地で生産されています。その他、ニット、レース、リボン、織マークの生産も有名で、繊維総合産地を形成しています。

しかしながら、国際競争の激化や流通構造の変化などの様々な要因もあり、産地としての出荷額は年々減少しています。その中で、当産地では現在、自ら企画・提案できる産地構造を目指し、自立・自販へ向け、様々な取組みを行っています。

平成16年度から当組合が始めた「ふくいテキスタイルステージ」事業では、素材の生産者である織布機業が集まり、「売れるモノづくり」をテーマに、より消費者に近い情報を取り入れて、毎年2月末に東京で開催する展示商談会を最終目標として事業展開を行っています。しかし、賃織加工形態の長かった産地として、織布機業が自ら前に出て、アパレル企業や流通業のバイヤー・MD（マーチャンダイザー）へ向け、企画・提案・販売を行うことは容易ではありませんでした。

そこで、平成17年度からは、更に事業を拡大し、毎シーズン変化する市場・トレンドに対応し、販売テクニックを身に付けるため、「ビジネス塾」を事業に組み込みました。このビジネス塾では月1回程度、ファッションデザイナーをはじめ、アパレル企業や百貨店のバイヤー・MDから他産地企業、または染色・刺繍等の後加工企業の方などを講師としてお呼びし、幅広い内容で講義を行っていただい



ふくいテキスタイルステージ展示商談会の様子

ます。生地流通の仕組みや生地価格の設定、そしてプレゼンテーションツール作成の仕方まで、自販のための総合体力を強化しています。

こうした経緯を踏まえ、東京にて行う展示商談会には毎回500名以上の来場者があり、機業自ら開発した商品を、直接顧客に提案する場として、非常に重要な機会となっています。回を重ねるごとに、企業のバイヤーに対するアプローチの仕方も変わり、着実に実績を上げている企業もあります。その他、ビジネス塾も継続して講義を行っていることで、講師との交流及び参加企業同士の交流にも繋がり、海外の展示代行や後加工の依頼などの新たな取引関係へと発展していったケースも出てきています。

また、20年度からは、バッグ、傘、スリッパなどの最終製品での販売を目指し、グッズ製作の新たな事業も始めました。これまで織物という中間素材を製作していた企業が、デザイナーのアドバイスを受けながら、参加企業ごとに自社商品の特徴を踏まえ、グッズを製作、小売価格も設定し、展示商談会にて発表しました。今後は販売を目指し、様々な展示会への出展を検討しています。

福井産地では、今後もこうした取組みを通し、長い歴史から培った技術力で新たな商品を提案し、自ら前進するアクションを起こしていきたいと考えています。



製作したグッズの展示

○問い合わせ先

福井県織物工業組合（森忠）

住所 福井県福井市大手3-7-1

電話 0776-21-2750